

開講科目名 / Course	生体薬物反応論 I	
ターム・学期 / Term・Semester	2021年度 / Academic Year 前期	
開講区分 / semester offered	前期	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	2	
主担当教員 / Main Instructor	吉田 成一	
担当教員名 / Instructor	吉田 成一	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	講義	
科目の目的と概要	医療において、薬物療法の重要性は高く、医療現場において、看護師が医薬品を取り扱う機会は多い。取り扱う医薬品に対する理解が不十分であると医療事故の原因になるため、本科目を設定している。医薬品の作用を疾患の治療薬という観点から学ぶ。個体レベル、組織レベル、細胞レベル、分子レベルでの作用機序を理解して薬の作用の本質や基本原理を学ぶ。医薬品を使用する際、その意義および医療上で注意すべきことを理解する。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 疾患の治療に医薬品を使用する理由が説明できる。 2. 看護師として医薬品の知識が必要となる理由を理解できる。 3. 医薬品の体内動態および副作用、相互作用について説明できる。 4. 生理活性物質の受容体の種類と刺激時、遮断時の生体応答を説明できる。 5. 循環器系疾患および代謝性疾患で使用する医薬品の特性を説明できる。 	
DPとの対応	2.看護を遂行するための幅広い知識と観察力・臨床推論能力、マネジメント能力	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 01. 医薬品が関連する事故 02. 医薬品の体内動態（吸収・分布・代謝・排泄） 03. 交感神経作動薬 04. 交感神経遮断薬 05. 副交感神経作動薬・遮断薬 06. 筋弛緩薬・局所麻酔薬 07. 高血圧治療薬 08. 心不全治療薬、狭心症治療薬、不整脈治療薬 09. 脂質異常症治療薬、糖尿病治療薬 10. 痛風治療薬、化学療法薬 	
その他の授業の工夫	実際の処方内容を例示し、治療薬の理解を深める。	
時間外学修	提示した処方内容について、対象疾患、副作用、使用するにあたり、注意すべき点（患者指導を含む）をまとめること。	
評価方法と評価割合	試験（100％） 試験で60点以上得点。なお、本試験で30点未満の場合、再試験の受験を認めない。	
テキスト	わかりやすい薬理学 第2版（ヌーヴェルヒロカワ） 今日の治療薬（南江堂）	
参考書		
履修する上で必要な要件		
その他		
教員の実務経験	有・無	無
	内容	
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容		